Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　大津野小　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	見直し	国語科・算数科における基礎学力の向上と「見通し」と「振り返り」のある主体的な学びの創造【課】【思】	教科・領域をつないだ単元づくりをする。	国語科・算数科の授業は「よくわかる」「学びが面白い」質問項目に対する肯定的評価80%以上にする。【児童アンケート】	□児童アンケートの質問項目に対する肯定的評価は「よくわかる」98%「学びが面白い」95%。達成率100%以上。 □タブレット端末を活用して，分かりやすい資料の提示や単元づくりを行った。	4	3	・単元のねらいや目的を明確にして，タブレット端末のより効果的な活用をし，教科・領域をつなぐ単元づくりを工夫する。 ・児童に「見通し」を持たせ，「振り返り」を書かせたり，交流させたりする。					
					児童の課題を分析し，改善を図る。ドリルタイムの実施やタブレットを効果的に活用していく。	単元テスト（国語科「思考・判断・表現」，算数科「知識・技能」観点において，60%未満の児童を低学年６%，中学年９%，高学年12%未満にする。【単元テスト】	□単元テスト（国語科「思考・判断・表現」観点において，60%未満の児童は，低学年6%，中学年4.7%，高学年4.1%。算数科「知識・技能」観点において，60%未満の児童は，低学年7.9%，中学年6.9%，高学年7.8%。学校全体での達成率83.3%。 □全国学力・学習状況調査の分析で，児童のつまずきを把握し，授業改善に取り組んだ。	3	3	・主体的に学び続ける授業づくり取組シートを継続して行う。 ・タブレットドリルを活用し，繰り返し技能の問題に取り組ませる。 ・学力アップデーなどを活用し，活用問題に取り組ませる。					
1	主体性・積極性の育成	★	継続	自ら課題を発見し，課題解決に向けて努力する児童を育てる【課】【主】	月1回ＯＰＴ（大津野プロジェクトタイム）を実施し，つけたい力を掲示する。代表委員会等を活用し，異学年でつけたい力等を交流する時間を設定する。	学級力レーダーチャートにおける「目標達成力」を86%以上にする。【毎月のレーダーチャート】	□学級力レーダーチャートにおける「目標達成力」82.3%（17学級中13学級達成）。 □OPTを実施し，つけたい力を掲示，17学級中17学級が達成，100%。	3	3	・目標達成力が低い理由を分析し，子どもたちと共有しながら改善に向けて取り組む。 ・学級力の課題について交流できる場の設定をすることで取り組みを深めさせる。					
1	たくましい体の育成		継続	めあてをもち，自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】【主】	課題のある種目について学期ごとの重点項目を設定し，体育授業の改善に取り組む。	新体力テストにおける県平均以上の種目率を65%以上にする。【体力テスト】	□８２項目中４１項目が達成し，達成した種目率は49.9%。 □測定方法やポイントについて職員研修をして取組への意識を高めた。	3	2	・体育の授業の導入で，課題がある種目の強化月間を取り入れ，走力や敏捷性等を高める。 ・カリキュラムマップに各学年ごとの課題を明記し，授業の中で継続して取り組む。					

2	教職員の元気	★	見直し	業務改善の実施と仕事のスピード化・効率化を意識した職務の遂行【課】【主】	週・月ごとの計画を早めに立て，見通しを持って職務を遂行する。夏季・冬季休業中に会議等のない日を設定する。	時間外勤務時間の平均45時間未満の月100%にする。年次有給休暇5日以上を計画的に取得する。	□時間外勤務は毎月全職員45時間以内を達成することができた。□年休は平均4.1日取得で昨年より2日分多い。	3	3	・今後も問題行動等に対して組織的に対応することにより，担任が業務や児童と向き合う時間を確保する。・勤務時間の管理や年休取得を計画的に行えるように指導・助言を行う。					
3	保護者・地域から信頼される学校の創造		継続	地域に愛着をもち，地域貢献する児童を育てる【共】	年2回以上地域の人と関わる授業をつくる。	「大津野が好き」といえる児童を86%以上にする。【児童アンケート】	□「大津野が好き」といえる児童，学校平均98.6%（17学級中17学級が達成100%）□年2回以上地域の人と触れ合う授業をつくる，16.6%（6学年中１学年が達成）	3	2	・カリキュラムマップで1年間を見通して，地域の人とふれあう授業を効果的に配置する。また，CMデーを活用し，随時見直しを行っていく。					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。